聖霊降臨後第１０主日（特定１５）　　火で弟子たちを鍛えるキリスト　　２０２２．８．１４．

この２週間ほど、愚かなお金持ちのたとえや、目を覚ましている僕のたとえを通して、わたしたちはイエス様が再び来られる時、あるいは自分が死んでゆく時など、私たちの心の準備をしていることの大切さを学んできました。

しかし、今日の福音書は、将来のことではなく、今、（今と言っても２０００年前ですが）イエス様が地上に来られていることの目的とか使命が何なのか、ということを私たちに教えておられるところです。

「わたしが来たのは、地上に火を投ずるためである。」と言われました。そして、それを補うように、「あなたがたは、わたしが地上に平和をもたらすために来たと思うのか。そうではない。言っておくが、むしろ分裂だ。」と言われています。

これが、比喩としての表現であっても、火を投ずる、というのは、穏やかな表現ではありません。

さて、それでは、イエス様が投げる「火」とは何のことでしょうか？
聖書には何種類か火についての話があります。私は聖書に書かれている火のうち、ふたつほど、考えました。

ひとつは、このルカによる福音書で洗礼者ヨハネが言っていることです。ヨハネは３章に登場してきますが、彼がイエス様のもたらされる火のことを次のように語っています。

『16:そこで、ヨハネは皆に向かって言った。「わたしはあなたたちに水で洗礼を授けるが、わたしよりも優れた方が来られる。わたしは、その方の履物のひもを解く値打ちもない。その方は、聖霊と火であなたたちに洗礼をお授けになる。17:そして、手に箕を持って、脱穀場を隅々まできれいにし、麦を集めて倉に入れ、殻を消えることのない火で焼き払われる。」

イエス様は、麦と殻を仕分けるために、箕を持っておられる、ということが書かれていますので、良い物と悪い物とを仕分けて、悪いものを焼き捨てる、裁きというイメージがあります。

もうひとつ、火というのは、不純物が混ざっているものを、より純度の高いものに清めてゆく、という働きがあります。

ペトロの手紙一　１章にこういう言葉があります。
『7:あなたがたの信仰は、その試練によって本物と証明され、火で精錬されながらも朽ちるほかない金よりはるかに尊くて、イエス・キリストが現れるときには、称賛と光栄と誉れとをもたらすのです。』

精錬とは、不純物の多い金属から純度の高い金属を取り出す過程のことを言います。
イエス様が来られることで、人間の持つ本性が、あらわにされて、私たちの中の不純なものが、さらけ出されてしまうということなんだろうと思います。

私たちは、みんな信仰を持っていると思っているのですが、試練に会う時、その信仰が単なる表面だけを取り繕うようなメッキであって、地金は偽物ということがわかってくるようなことが起こり、今まで何の争いもなかったところに、分裂が生じることがあるのではないか、と思うのです。

今日の、イエス様の、「火を投ずる」という言葉と、「分裂だ」という言葉の間に挟まったところに、大切な言葉があります。
５０節の『しかし、わたしには受けねばならない洗礼がある。それが終わるまで、わたしはどんなに苦しむことだろう。』というところです。
この洗礼とは、イエス様がこれから負われる苦しみ、十字架を表しています。今日の福音書のところでは、まだ、火は燃えていません。イエス様が十字架にかかるところで、この火は燃え始めるのです。

今まで、イエス様に期待をかけていた弟子たちは、イエス様を置いて逃げ出し、また、イエス様に理解を示していたかに見えた、ポンテオ・ピラトも、イエス様を寛容に扱うことでユダヤ人たちから批判されると、その責任を回避して、手を洗って逃げてしまいました。

これは、イエス様を囲む人々が、火によって、精錬されているのかもしれないし、あるいは偽物があらわになって、焼き捨てられている、ということかもしれません。

しかし、そのような分裂を通して、私たちはそれぞれ、自分の未熟さに気づかされ、本物に清められて行く、ということではないか、と私は思っています。イエス様を捨てて逃げて行った弟子たちが、回心して立派な使徒となっていったことを思う時、私たちは、分裂したり、対立したりすることを、恐れないことの方が大切なのではないか、と思います。

そのことを、今日の旧約聖書も使徒書も、教えているように感じます。使徒書には「主による鍛錬」という見出しがついています。こちらを見てみましょう。

ヘブライ人への手紙の著者は、イエス様が十字架の死を耐え忍んだように、わたしたちも、自分に定められている競争を忍耐強く走り抜こう、と呼びかけています。
『4:あなたがたはまだ、罪と戦って血を流すまで抵抗したことがありません。5:また、子供たちに対するようにあなたがたに話されている次の勧告を忘れています。「わが子よ、主の鍛錬を軽んじてはいけない。主から懲らしめられても、／力を落としてはいけない。6:なぜなら、主は愛する者を鍛え、／子として受け入れる者を皆、／鞭打たれるからである。」7:あなたがたは、これを鍛錬として忍耐しなさい。神は、あなたがたを子として取り扱っておられます。いったい、父から鍛えられない子があるでしょうか。』（ヘブライ１２：４～７）

私たちは、ただ楽しい教会生活をすればいいのではなく、常に新しい刺激を受けて、新しい事態に対処するために、常に学び、信仰の修行をする必要がある、ということでしょう。

先月、参議院選挙の途中で、応援演説していた安倍晋三氏が狙撃されました。そしてこの背後には、霊感商法でかつて社会問題になっていた統一教会があることが明らかになってきました。

私たち教会も宗教法人ですので、献金のことなど、おそらく他人事ではなく、私たちはどう説明するか問われていることです。無関心に過ごすのではなく、周りの人たちから「あなたの宗教はどうなのですか？」「聖公会もキリスト教でしょう？」と言われた時、ちゃんと答えられるか。自分なりの説明ができるように、考えているか、問われていると思うのです。

この数年、新型コロナウイルスのことが問題になり、またこの２月末からは、ウクライナへロシアが侵攻して、長い戦争が続いています。これについて、やはり私たちは話し合わなければならない。

現代においても私たちは、社会の問題を通して火を投げられていて、分裂する種がまかれているということです。イエス様はそれらを通して信仰を考えるように、と言われているのです。

聖書は私たちが忍耐強く、火による鍛錬ということをするようにと諭しているように思いました。